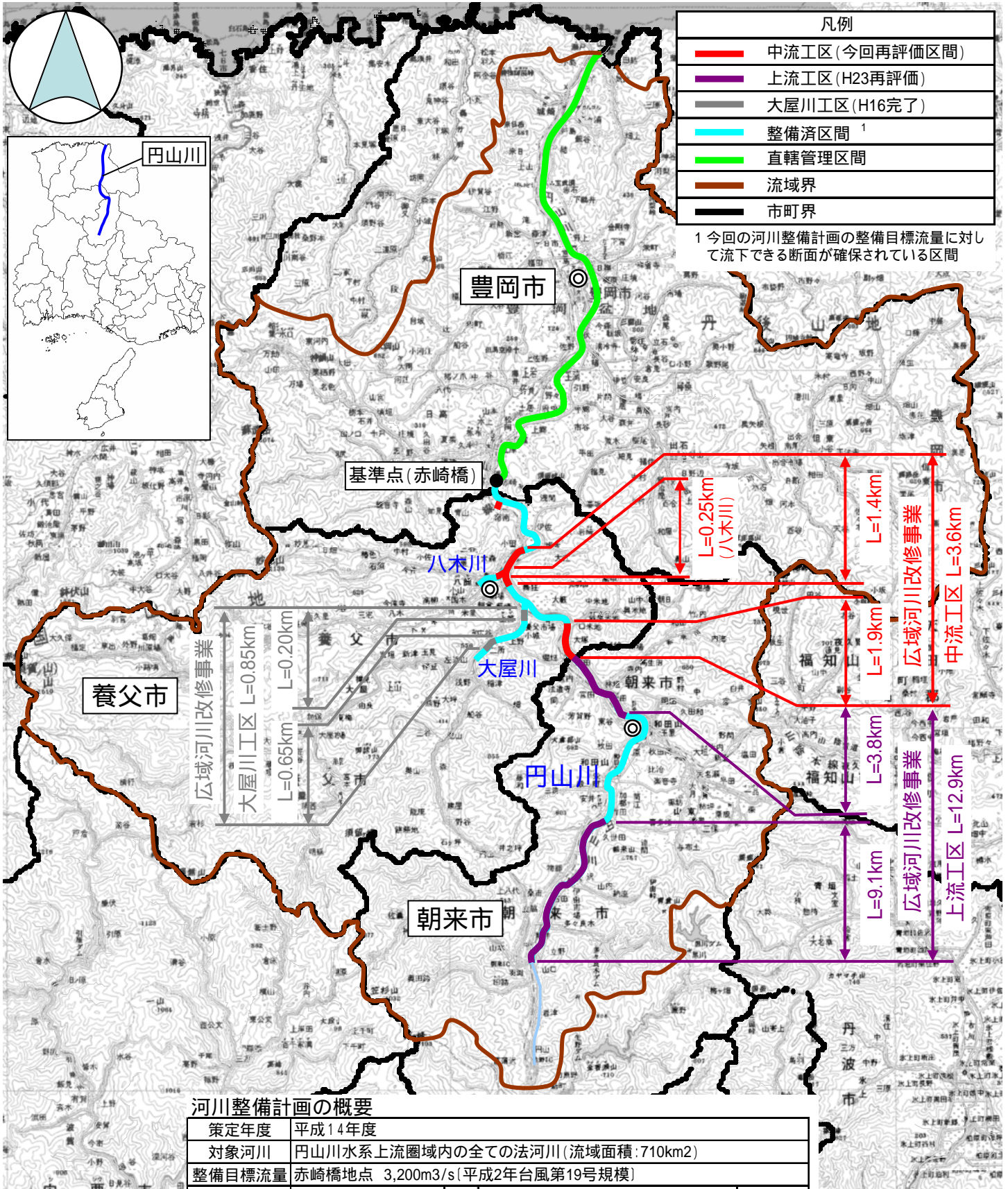


継続事業評価調書
【河川事業】

一級河川 円山川（中流工区）

土木局 河川整備課

円山川水系上流圏域河川整備計画概要



凡例	
—	中流工区(今回再評価区間)
—	上流工区(H23再評価)
—	大屋川工区(H16完了)
—	整備済区間 ¹
—	直轄管理区間
—	流域界
—	市町界

1 今回の河川整備計画の整備目標流量に対して流下できる断面が確保されている区間

河川整備計画の概要

策定年度	平成14年度			
対象河川	円山川水系上流圏域内の全ての法河川(流域面積: 710km ²)			
整備目標流量	赤崎橋地点 3,200m ³ /s(平成2年台風第19号規模)			
整備区間	河川名	No	整備区間	
		円山川	中流工区	小田井堰上流～舞狂橋下流
	上流工区		米地橋上流～大塚井堰	1.9km
	大屋川		大塚井堰～寺谷橋下流	3.8km
			朝来橋上流～神子畑川合流点	9.1km
	八木川		大屋川上下流	0.20km
		軽部橋上流～十二所大橋下流	0.65km	
整備期間	平成14年から概ね20年			

今回事業評価対象区間

【一級河川 円山川 広域河川改修事業】

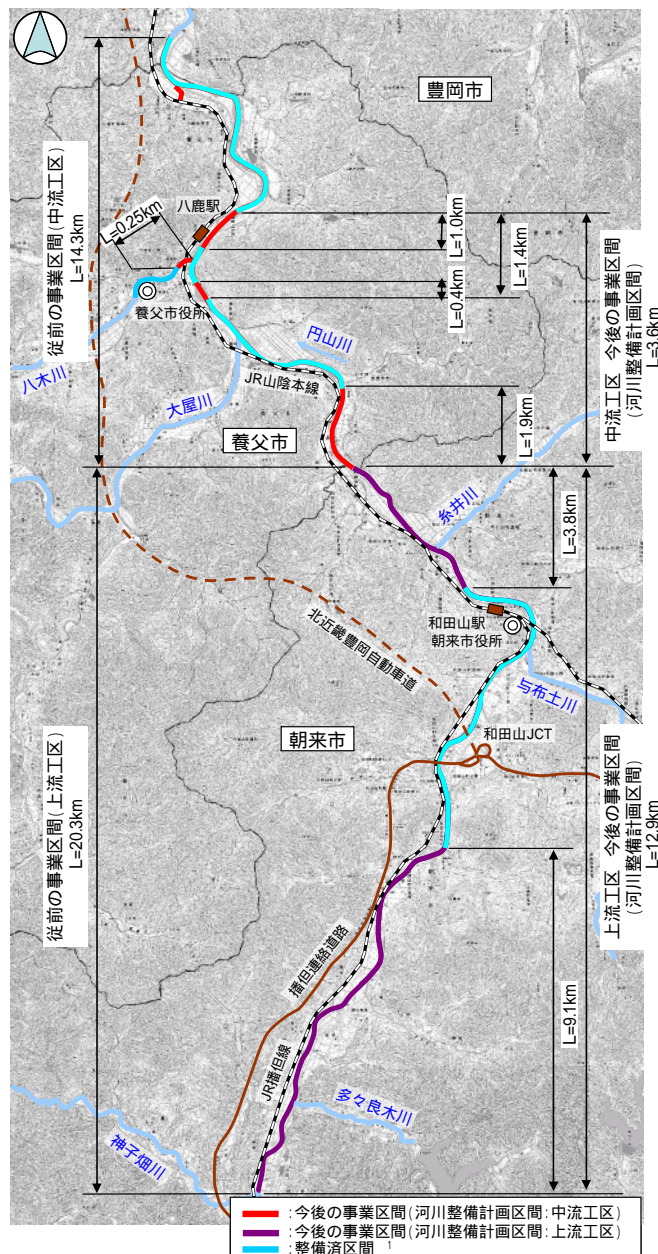
[従前] 従前の整備内容での比較

	現計画	前回評価時点
事業採択年度	昭和 23 年度	昭和 23 年度
完成予定年度	平成 33 年度	平成 33 年度
総事業費	79 億円	79 億円
整備延長	14.3km	14.3km
整備区間	豊岡市日高町浅倉 ~ 養父市養父市場	

[今後] 河川整備計画に即した整備内容の比較

	現計画	前回評価時点
河川整備計画策定年度 (事業採択年度)	平成 14 年度	平成 14 年度
完成予定年度	平成 33 年度	平成 33 年度
総事業費	32 億円	32 億円
整備延長	3.6km	3.6km
整備区間	養父市八鹿町上小田 ~ 舞狂、 養父市八鹿町八鹿、養父市養父市場 ~ 堀畑	

事業概要図



1 今回の河川整備計画の整備目標流量に対して流下できる断面が確保されている区間

事業変遷

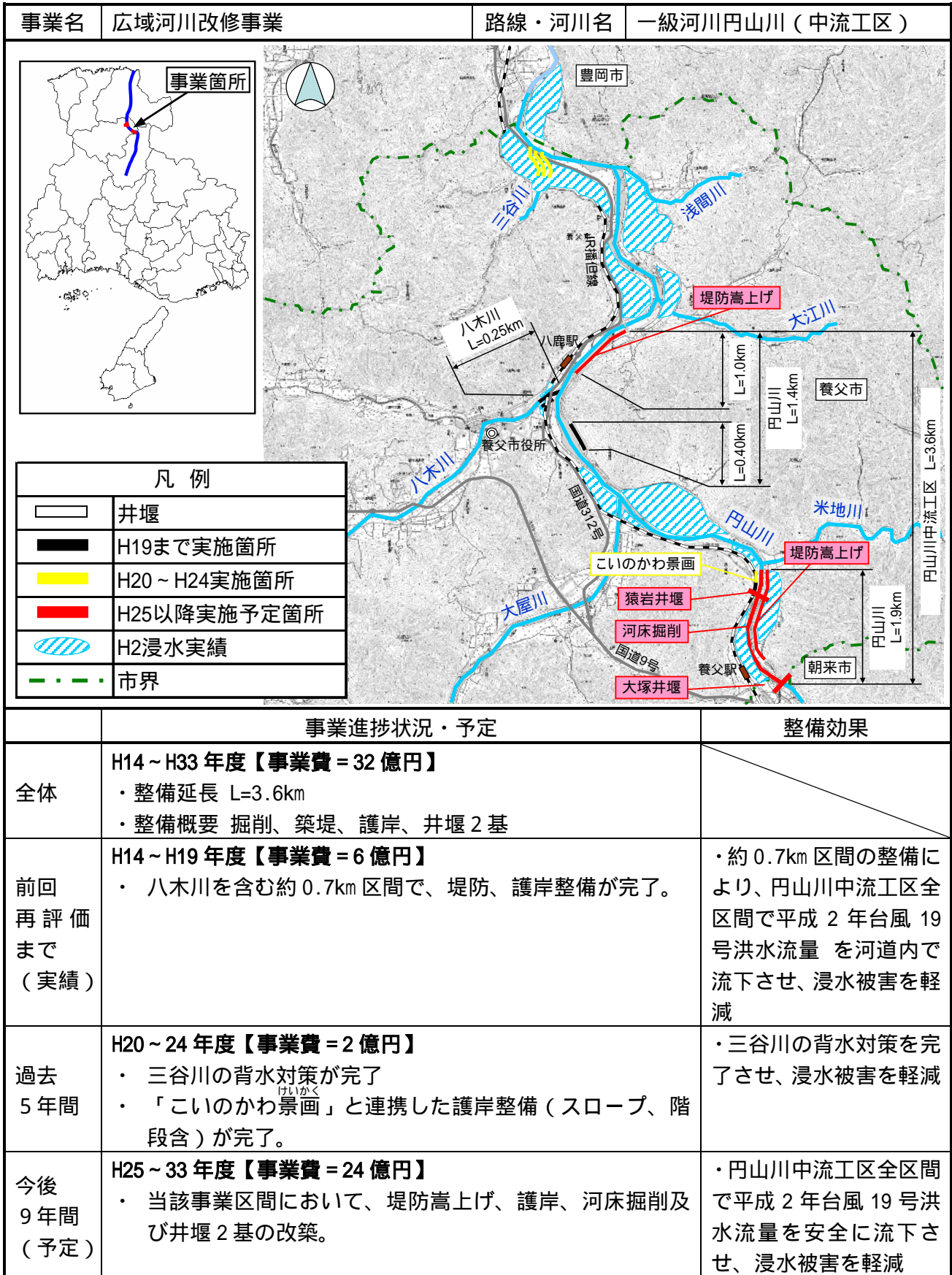
- 昭和 23 年：円山川改修工事着手
(八鹿工区(中流工区))
- 昭和 24 年：中小河川円山川改良工事全体計画書
策定(養父市八鹿町宿南 ~ 朝来市和田山
町加都(加都橋))
- 昭和 28 年：八木川工区(中流工区)着手
- 昭和 32 年：養父工区(中流工区)着手
- 昭和 34 年：伊勢湾台風洪水
- 昭和 35 年：和田山下流工区(上流工区)着手
- 昭和 37 年：大屋川工区着手
- 昭和 40 年：台風 23 号洪水
- 昭和 44 年：和田山上流工区(上流工区)着手
- 昭和 47 年：与布土川工区着手
- 昭和 51 年：台風 17 号洪水(浸水家屋 146 戸)
- 昭和 62 年：台風 19 号洪水(浸水家屋 88 戸)
- 昭和 63 年：中小河川円山川改良工事全体計画書
変更(朝来市和田山町加都(加都橋) ~
朝来市多々良木(多々良木川合流点)を
追加)
朝来工区(上流工区)着手
- 平成 2 年：台風 19 号洪水(浸水家屋 701 戸)
- 平成 10 年：事業評価(再評価第 1 回)
- 平成 14 年：円山川水系上流圏域河川整備計画策定
事業評価(再評価第 2 回)
- 平成 16 年：台風 23 号洪水(浸水家屋 240 戸)
- 平成 19 年：事業評価(再評価第 3 回)
- 平成 21 年：台風 9 号洪水(浸水家屋 359 戸)
- 平成 23 年：上流工区事業評価(再評価第 4 回)
- 平成 24 年：広域河川改修事業の事業区間変更
(朝来市多々良木(多々良木川合流点)
~ 新井(神子畑川合流点を追加))

：今後の事業として位置付け
浸水家屋数は水害統計より(養父市、朝来市域分)

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課長 松本正利 (治水係長 木村浩之)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	新規評価年度	-	現計画	前回評価時点
事業名	一級河川円山川 広域河川改修事業(中流工区)	河川整備計画策定年度 〔事業採択年度 着工年度〕	H14	総事業費	32 億円
事業区間	養父市八鹿町上小田～舞狂 養父市八鹿町八鹿 養父市養父市場～堀畑	再評価年度	H19	内用地補償費	4.6 億円
所在地	養父市八鹿町上小田～舞狂 養父市八鹿町八鹿 養父市養父市場～堀畑			完成予定年度	H33
				進捗率 (内用補進捗率)	24% (39%)
				残事業費	24 億円
					26 億円
事業の目的			事業内容 () 前回評価時点		
当該河川では、平成2年9月台風19号洪水等過去から度重なる浸水被害に見舞われており、近年では、平成16年10月台風23号洪水、平成21年8月台風9号洪水により浸水被害が発生している。 そのため、築堤、河床掘削等による河川改修を実施し、既往最大となる平成2年9月台風19号規模の洪水から浸水被害を防止し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保する。			計画流量 3,200m ³ /s(3,200m ³ /s) (基準点：赤崎橋) 整備延長 3.6km(3.6km) 井堰 2基(2基) 〔負担割合 国：1/2, 県：1/2〕		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化			【関連事業】 ・円山川広域河川改修事業(上流工区) 継続		
前回再評価以降、平成21年8月台風9号洪水により、浸水被害が発生している。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 河川整備計画にあわせ、事業区間等を見直した。					
進捗状況	八木川を含む約0.7km区間で、築堤、護岸整備が完了した。 残る約2.9km区間についても、段階的に整備を進めており、すでに計画高水位までの築堤等が完了している。 平成16年台風23号洪水で甚大な浸水被害が発生した三谷川の背水対策が平成22年度に完了した。 残事業は、円山川本川約2.9km区間の堤防嵩上げ、護岸、河床掘削及び井堰2基の改築となっている。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H19年度 再評価)	【審査会意見】 事業費が大きく、原則として下流から逐次工事を進める必要があることなどから事業は長期間にわたるが、地域住民の安心・安全を確保するためにも、一層の事業促進を図りたい。井堰の統廃合などのコスト縮減にも継続して取り組まれない。		【対応方針】 三谷川の背水対策を平成22年度に完了させ、早期に事業効果を発現させた。今後は、人家等に影響を及ぼす上流1.9km区間を先行して整備し、地域住民の安全・安心を確保する。井堰改築の際には、コスト縮減が図れる構造を検討していく。		
(1)必要性	円山川流域は、S34年9月伊勢湾台風をはじめS51年9月洪水、既往最大の雨量を観測したH2年9月台風19号等で多くの浸水被害が発生した。 当該事業においては、井堰改築や堤防嵩上げが必要となっている区間が残っており、引き続き河川改修を進める必要がある。				
(2)有効性 ・効率性	費用便益比 B / C = 9.1 (河川整備計画全体：B / C = 4.2) 人家等に甚大な影響を及ぼす区間を先行して整備することで、早期に地域住民の安全・安心を確保する。				
(3)環境適合性	井堰改築の際には、魚道を設置し、魚類の遡上に配慮する。 従前からあった瀬や淵、みお筋等を可能な限り保全・復元するなど、多様な生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。 礫河原を保全し、礫河原固有の生物の生活環境への影響を最小限にとどめる。 川と親しむことを目的として旧養父町商工会が提案し、同町が策定した「このかわ景画」と連携し、親水性に配慮した河川改修を行う。				
(4)優先性	本事業区間では段階的な整備を進めており、早期に事業効果を発現するためにも、優先的に改修を進める。				
結果評価の	継続	左の理由 事業の必要性は、河川整備計画策定時と変わっておらず、再度災害を防止し、地域住民の安全安心な生活環境を早期に確保するため、事業を継続する必要がある。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）



円山川水系上流圏域河川整備計画の目標流量

出水状況(平成2年台風19号)

浸水状況

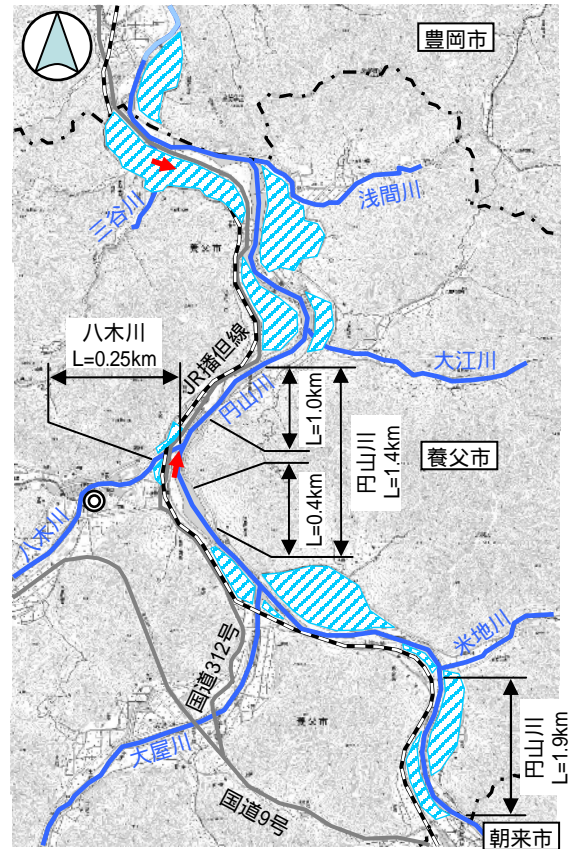
三谷川(円山川合流点付近)



八木川(円山川合流点付近)



平面図



平成2年台風19号浸水範囲

神戸新聞:平成2年9月19日



平成2年台風19号洪水浸水実績

床上浸水	31戸
床下浸水	408戸
浸水面積	118ha

出典 水害統計(養父市域)